

# 常総学院同窓会会報

発行／常総学院高等学校同窓会 編集人／同窓会会報編集委員会 委員長／飯田晃久 印刷／(株)塚田印刷



## 更なる発展を期して

理事長 桜井 富夫

今年八月、硬式野球部は、春夏通算十三回目の甲子園出場を果たしました。また吹奏楽部は、全日本吹奏楽コンクールで通算十回目の金賞を受賞いたしました。卒業生の皆様の熱いご声援に心から感謝申し上げます。さて平成十四年度は、高校開校二十年目、中学校開校七年目の節目の年であります。

振り返りますと、野球部が夏の甲子園に初出場、準優勝の栄誉を得ましたことが、本学院発展の大きな契機となりました。各部活動は、日々努力を重ね、成果達成を目標に確かな歩みを進めております。

進学面でも、部活動の研鑽に呼応して、大いに実績を伸ばしてまいりました。

昨年は「週刊朝日」が、今年には「サンデー毎日」が、全国的な視点から、躍進顕著な進学校の一つとして特集記事を組んでおります。地域社会の皆様からも、学力を伸ばすなら常総との評価

を頂いております。

今後とも常総学院は、茨城の美しい自然の直中にあつて、豊かな人間性を育み、高い志と知恵を併せ持つ、日本の、ひいては世界のリーダーを育てます。

さらに地域社会と学院キヤンパスとの融合を図り、教育文化の発信基地として、名誉ある地位を築いてまいります。

なお本学院「中高一貫コース」については、明確な動機付けを意図して、平成十五年度入学生から、医学部(理系)・法学部(文系)・東大(文理系)の三コース制を導入いたします。これは、本学院が先見的、先進的な「基礎教育の場」として、地域社会に貢献しようとする意思表明でもあります。常総学院の更なる歩みに注目して下さい。

卒業生の皆様のますますのご発展、ご活躍をご祈念申し上げますとともに、ご支援の程お願いいたします。

# インターハイ活動報告

## バドミントン部

部顧問教諭 木内 広史

バドミントン部は現在、男子十六名女子十名で活動しています。

本校が創立二十周年を迎える本年に高校生最大のイベント、インターハイが巡ってまいりました。

十三、十四年度を振り返りますと、男子は県内でも勝てず、十一月の新人戦三位、四月の関東予選も三位と、インターハイ出場も十六年連続でストップしてしまいうのではと思われました。しかし六月の全国県予選では団体とダブルスで優勝、シングルスも準優勝という結果でインターハイ以上の盛り上がりでした。父母の会の応援も大変心強いものでした。特に主将進藤陽介はダブルスを始めて五ヶ月という間に急成長を遂げ、パートナーの内田も鉄壁のレシーブを披露し、第一シングルスを任せられた中山は県内無名ながら切り込み隊長の役割を十分に果たし、個人

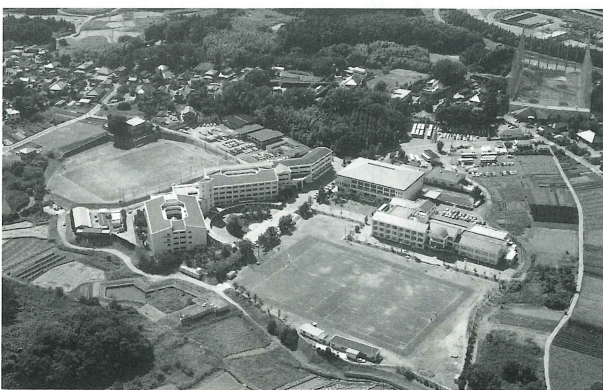
戦でも代表になりました。結果的にこの三年生三名のふんばりがインターハイ出場への原動力となりました。女子では過去最強メンバールと言われ、県内においては団体個人ともに敵なしにもかかわらず関東の壁をなかなか崩せず、優勝まで今一歩でした。全国大会になると二回戦止まりが続き、期待されながらも結果が出せず、磯部先生もかなり悩まれたと思います。男女ともこのような状態でしたから地元大会で活躍できるのかという不安が頭をよぎっていました。七月後半の合宿をこなし、いよいよ大会です。やることはすべてやった、もう迷いはありません。八月二日団体戦、男子は二回戦京都両洋高に三対二と辛勝したものの竹園高校の体育館は四十度以上の暑さで選手の体力を奪っていきまます。三回戦岡山水島工高戦はすべてファイナルゲームを戦いながら一対三で敗退し、ベスト十六でした。女子は二回戦長崎女子高、三回戦広島桜ヶ丘高とともに三対

〇のストレートで下し、茨城県勢で唯一、二日目に駒を進めました。準々決勝は昨年優勝した青森山田高校、今年も優勝第一候補です。第一シングルスは主将綿引、接戦をものにして勝利。続く第一ダブルス清水・岡本組も波にのり勝つて二対〇と王手をかけましたがあと一ポイントがとれず二対三で逆転負け、ベスト八という成績でしたが入賞は八年ぶりでした。

大会三日目はダブルスで、進藤・内田組、綿引・岡野組が三回戦、原田・桜井組が二回戦と敗退する中、清水・岡本組が準決勝に名乗りを上げました。四日目はシングルス、進藤、綿引、原田が四回戦まで進出しました。いよいよ最終日、清水・岡本組は準決勝、団体優勝校、青森山田の廣瀬・今別府組と対戦です。一ゲーム目を十五対二で取られ、もはやこれまでかと思われた瞬間、土壇場から粘りに粘り大逆転勝利。決勝は打ってよし、守って良しの林・脇田組(県立岐阜高)です。一ゲームマッチポイントを握るも逆転負けを喫し、二ゲーム目も十本で敗れました。しかし最後は会場中が歓喜の拍手、二組の健闘を讃えました。

私も監督であり、高体連の役員でもありましたので、常総のみならず茨城県勢が大会を盛り上げてくれたことに感謝しています。長かったような短かったようなインターハイ。三年生は大舞台を経てちよっぴり大人になった気がします。感傷に浸る間もなく、我が部は新チームへのたすきがわたされたために「日本一」への長い戦いが始まっています。

同窓会会員の皆様、今後とも応援宜しくお願いいたします。



# 水泳部(競泳)

三年二十二組 本田海翔

常総学院水泳部(競泳)は、今年度二十一名で活動しています。競泳部は、毎年全国総体、国体などに出場しており、伝統と実績を残しています。

僕は、高校一年生から、全国高校総体に出場していますが、過去二年間、自分に満足のいく結果が出せずに大会が終わってしまいました。

それからの練習では「自分に負けない。」を絶対目標として、厳しい練習に耐え、毎日練習してきました。

そして今年の全国総体。今年は地元茨城で開催だったということもあり、とてもプレッシャーを感じました。しかし過去二年間と同じ思いをしたくなかったので、試合では自分を信じて泳ぎました。結果は予選落ちで終わってしまっただけ、自分がここまでこれたのも、応援してくれた人達と一緒に練習してきた仲間達、そして指導してくれたコーチのお陰なのでとても感謝しています。一緒にこれ

からも頑張っていくので応援よろしく願います。

# 水泳部(水球)

三年二十三組 池田 誠

僕たち常総学院水泳部(水球)

は、今年度部員八名という少人数で活動しています。水球部は、一昨年は国体出場、昨年は全国総体ベスト十六、国体七位と近年実績を残しています。

僕は、高校一年生からスタメンとして試合に出ていました。しかもディフェンスの中心としてです。しかし一年生のころはまったくいプレーができず先輩に迷惑ばかりかけて足を引っぱってばかりで自分のプレーに納得がいきませんでした。

そして二年生になりディフェンスを中心に厳しい練習も必死になつて頑張りました。

三年生になり地元で開催される全国総体。開催県代表チームのキヤプテンとしてチームを盛り上げて頑張ってきました。最後の大会、悔いを残さないプレーをしようと思いました。そして結果はベスト

八に入ることができました。このような結果が出せたのも、周りで支えてくれたコーチやOBの方々や助け合い信頼できる仲間がいたからだと感謝しています。これからも頑張っていくので応援よろしく願います。

# 水泳部(飛込)

二年十二組 伊井宏彰

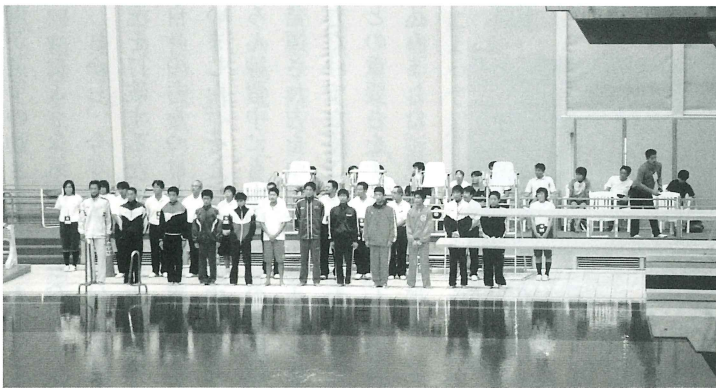
昨年のインターハイは、十三位で予選落ちというとても悔しい結果に終わりました。その時は、初めてインターハイ出場という緊張に耐えられずに、試合の途中で集中力がなくなり、得意種目を失敗してしまふという大きなミスがあったので、今年は特に集中力という点を重視して練習してきました。

そして今年のインターハイ。地元開催ということもあって、そのプレッシャーは大きかったけど、昨年のような悔しい思いはしたくない一心で厳しい練習を積み重ねてきました。

試合では板飛び込みで十位となり予選通過したけど入賞できなかったので、最終日の高飛び込み

すべてを賭けました。

結果は予選五位通過で決勝では六位と予選より順位を下げたけど入賞することができました。でも全ての種目を成功させたわけでもないのに満足はできませんでした。来年は優勝を狙っていきたいです。そして今回入賞することができたのは、応援してくれた役員の人達や、指導してくれたコーチのお陰なので、とても感謝しています。



## 柔道部

三年二十三組 松崎剛至

柔道部は現在、部員十七名が所属しています。毎日、自分達の目標に向かって厳しい練習をしています。柔道部は最近、確実に実力をつけています。三年連続の関東大会出場。今年は県大会予選は三位通過でした。個人戦でも、県新人戦では六十六キロ級で優勝し、インターハイ県予選では七十三キロ級で出場を決めました。

柔道は個人の戦いですが、一人で強くなることはできません。卒業しても来てくれるOBや部員全員で集中し、練習して徐々に力がついてきます。また遠征試合や合宿等で基礎体力を身につけ、メンタルトレーニングでは、集中力や精神力が付き、相手を倒すための技を教わりました。そして、そこから寝技で相手を押さえ込んで勝つという得意の決め技を持つことができ、大きな自信になりました。私は常総学院の柔道部に所属してからは、ずっとインターハイを目標にしてきました。インターハイという高校のスポーツ選手、誰

もが憧れ、目標とする最高の舞台で、絶対に活躍するんだという気持ちで県大会に臨んで、念願のインターハイ出場という大きな切符を手に入れることができました。

私の階級は七十三キロ級ですが、減量との戦いもありました。普段は七十五キロ位あるので、減量しながらの練習がきつい時もありました。

そして、八月九日の試合当日。試合会場は、他の大会とは全く違う雰囲気でした。

初戦の相手は、鹿児島代表の選手でした。相手は、一六〇センチぐらいしかなく、動きが機敏で自分の思い通りの技がだせずに終わってしまいました。

試合結果は、鹿児島代表に判定で負けましたが、地元茨城でとても貴重な経験ができ、本当によかったです。



## 野球部

### 第八十四回全国高等学校

#### 野球選手権大会を戦って

今夏の春夏通算十三回目の甲子園大会出場に際しまして、常総学院高等学校同窓会会員の皆様より絶大なご支援を戴きまして、選手一同伸びやかに大会を戦い抜くことができましたことを、心よりお礼申し上げます。

さて、今年度のチームは、先輩の春夏連続甲子園出場、選抜大会全国優勝という大きな置き土産をもらいながら、昨年の大会でももやの地区予選敗退というだれもが耳を疑うような結果からスタートしました。今年の春の大会でも、県大会にこそ出場はしたものの、水戸商業高校に敗退し結果らしい結果も残せず、来る夏の茨城県予選ではノーシードからのスタートとなりました。

この間の選手たちにかかるプレッシャーは並大抵のものではなく、「甲子園選手を何人も残しているのに：」「先輩はこんなチームじゃないなかったのに：」というような

声が選手の動きをどんどん縛っていったような気がしました。

しかし、今年のナインはこの状況を打破するためにひたすら自身自身力をつけることに専念していました。そして、大会中はもちろん練習中にも木内監督の手腕は発揮され力をつけた常総ナインは、力だけでなくこの力をあわせることの重要さをナインに厳しく叩き込みました。夏の大会前には、子



供たちと監督が、まさに戦いながら作り上げてきたものがだんだんと形になってまいりました。今夏の決勝戦、この試合がナインの集大成のゲームであったと感じられます。

力を発揮できずにリズムを崩した常総ナイン、力を発揮させるためのきっかけとなる一手を打った木内監督、それに答えて、今までにない集中力を発揮し逆転劇で優勝を掴み取った選手たち、常総のみならず高校野球ファンすべてが感動した試合だったと思います。

この後の甲子園での常総ナインの活躍は皆様もテレビなどご覧になったはずで。まさに「水を得た魚」のような活躍でありました。昨年に引き続きという結果にはつながりませんが、常総野球、木内野球を十分に全国のファンに印象付けた戦いぶりであったように思います。

今大会このように厳しい県予選を戦い抜くことができたことは、わが野球部の卒業生のみならず常総学院をここまで成長させてくれた先輩諸氏の見えない後押しがあったからに違いないとつくづく感じました。野球部も、

学校と同じく創部二十周年を迎えます。歴史はまだ新しいかもしれませんが、甲子園においては伝統校と呼ばれるまでに成長しました。これも先輩諸氏のご尽力の賜物であると改めて感謝する次第であります。

最後となりましたが、今後益々のご支援、ご指導、ご鞭撻のほどをお願い致しまして今年度、夏の大会報告とさせていただきます。

## JRC部

一年三組 白神 崇司

今年度のJRC部は、先輩方のいない一年生計十四名の部となっています。何をするにあたっても初めての事ばかりなので、顧問の松原先生や引退された三年生の先輩方に教わりながら活動しています。

今さらながらですが、JRC部とはジュニアレッドクロス、青少年赤十字のことです。堅物なイメージが強いかもしれませんが、皆それなりに楽しみながら活動しています。

主な活動としては、四月に毎年

行われる霞ヶ浦マラソンボランティア。今年は天候に恵まれず、数名の部員がまだ引退していなかった先輩方と共にマラソンを陰で支えました。

五月、十二月に献血キャンペーンボランティア。今年の五月は諸事情で出来ませんでした。十二月にその分も踏まえて活動したいです。

十月には赤い羽根募金。羽根の区分けから募金の徴収までを行うなど、多くのことが予定されています。



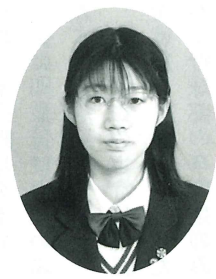
そして夏休みに行われたインターハイ。レスリングの補助役員、他の部の人たちと共に単純ながらもやりがいのある活動が行えました。

毎月行われているラオス募金活動。先輩方の代から続き、今もなお目標に達するまで毎回、皆が熱心と呼びかけをしています。目標は百万円。それでラオスに一つの学校が建ちます。ラオスの子供たちのために出来ること。人のボランティア精神を信じ、呼びかけに応じてお金を投じてくれた人々には感謝をしています。名も知らぬ子供たちのために投じてくれる人々、募金の主旨がわからないながらも投じてくれる人々、多くの人の手によって、少しずつ、少しずつ学校の建つ日は近づいています。

JRCは「人道・博愛」の精神に従って活動している組織です。常総学院だけではありません。多くの地域でJRCは活動をしています。自分たちもその精神に則って他の地域のJRCに負けぬよう努力していきたいです。

最後に、JRCでなくても、この精神をすべての人が理解して共感してくれることを願います。

# 林間学校に参加して



中等部 二年四組  
小林祥子

今回の林間学校は何を思い出し、  
ても驚きと感動で一杯、そしてと  
ても楽しい二泊三日となりました。  
どの思い出もみな良い思い出で、  
何が一番と決めるのが難しいので  
すが、特に心に残る思い出は白虎  
隊についての見學と、はじめて実  
現したキャンプファイヤー、そして  
磐梯山のハイキングです。白虎隊は  
自分達と殆ど同年齢の少年達が会  
津を守ろうと命を賭けて戦ったと  
いう事が大きな驚きでした。強固  
な意志と情熱、勢いを多くの資料  
から感じ、そして今、この時代に  
生きている事、平穩に生活できる  
事は本当に幸福な事だと思いまし  
た。又、彼らの志の様子を見學し、  
その時しかできない事を一生懸命  
する事の大切さも感じる事ができ  
ました。しかし、そのたった一つ

の貴重な命を戦いで失う事になっ  
た悲しみや空しさも同時に感じま  
した。夜になってからのキャンプ  
ファイヤーも深く心に残りました。  
小学校でもチャンスは二回程あっ  
たのですが、どちらも天候は雨。  
キャンプドルサービズや演劇会に変  
更になってしまい、残念な思いを  
してきたので、今回は実現できた  
事だけでとても嬉しく思いました。  
又、学年のみんなで囲む炎は不  
思議な雰囲気で温かな気持ちにな  
り、忘れられない思い出となりま  
した。そして、ハイキングは思っ  
ていたよりも長く険しい道のりで  
した。しかし、予想を遙かに上回  
る爽やかで広々とした、気持ちの  
いい磐梯山の自然や、四時間かけ  
て山頂まで登りきった瞬間の喜び  
の方が途中の辛さよりもずっと大  
きいものでした。それと同時にハ  
イキング時の水筒のお茶は限りあ  
るもので、水の大切さを知りまし  
た。この三日間、本当に沢山の思  
い出を作ることができました。来  
年の海外研修が楽しみです。

# ニュージーランド ファームステイ

中等部三年一組 山形 萌



何ヶ月も前から準備して、あれ  
だけ楽しみにしていたNZ研修旅  
行も、何だかあつという間に終わ  
ってしまった感じです。少々空虚  
な気分になりながら現実に戻っ  
ていくのは身にしみて感じていま  
すが。  
NZとはどんな国なのか…のど  
かで家畜がいっぱいいて、人も食  
事もいい、オマケに物価も安いと  
いうかなり都合のいい国と聞いて  
いましたが、私にはそのような噂  
以上にいい所に思えました。やつ  
ぱり実際に行ってくるのは違うな  
あ。それで、何が良かったのかと  
いうと、牛とか羊とかの動物、ツ  
チボタルの鍾乳洞と言った自然も  
すごく気に入ったのですが、やは  
り「人」だと思いました。私の行  
ったファームには若そうなお父さ  
んやお母さん、そして三人の、い  
ずれも私達より年下の子供達がい

ました。お父さんの方は早朝から  
夕方にかけて仕事に行ってらっし  
やるので、私達は専らお母さんの  
サンドラさんにお世話になりました。  
サンドラさんには私達に終始笑  
顔で接してくれて、少なくとも私  
は英語があまり通じていないとい  
う重大な問題も気にすることなく  
過ごせました。私が時計をなくし  
てしまった時も、忙しい所を一緒  
に探して下さったのを今でも忘れ  
ません。結局時計は見つかり、し  
かも原因は己のドジという結末に  
終わり、私はもう立場も何もあっ  
たもんじゃありませんでしたが(笑)  
見つかつたと報告したらまた笑顔  
で「安心した」と言ってくれました。  
さてその反面、子供達はとんで  
もない元氣者ばかりで、遊んであ  
げないとキレてしまいます。相手  
をするのはハッキリ言って疲れま  
したが、初めて会ったばかりでも  
全く気がねなく遊びに誘ってくれ  
て、自分からきつかけをつくれな  
いタイプの私にはかなりありがた  
いことでした。非常に嬉しかった  
です。  
NZの人々は心が広くていいな  
あ。私も人を安心させられる人にな  
りたいものです。



## 我が母校を卒業して十二年!!

茨城いすゞ自動車(株)

平成二年度卒

仁平成彦

まず最初に、この度は、常総学院同窓会々報第三号発行にあたり、お祝い申し上げます。

さて、私は昭和六十三年四月(六期生)に、我が母校となる、常総学院で、青春の一ページのスタートを切ったのでした。

月日の流れも速く、十二年も経ってしまつたので、あまり覚えていないのですが、私が学んだ時の常総学院を思い出してみます。

まず、私が一番、今でも覚えていたことは、入学生の人数の多さでした。それと、体育館のステージ一杯に先生方が、お揃いになり、威圧感があふれていました。

その時、私は、「本当に、高校三年間やっていけるか?無事に卒業式を迎えられるかなあ」と思うほど不安でした。

でも、その不安は、入学式の当日には、たくさんの友達ができ、どこかへ飛んでいきました。

その友人達とは、今でも交流を持っています。又、数多くの恩師にも出会い、時々、酒を酌み交わしながら、最近の近況報告をしたり相談のつてもらっています。

高校時代を振り返ると、他の高校生には、味わえない事を体験する事が出来ました。

その一つが、甲子園の応援が出来た事で、何回も連れていってくれたけど、特に思い出は、高校一年生の夏に、開会式にあたり、現在の皇太子殿下が、始球式を行い、相手校に大勝した試合を応援出来たことです。

もう一つは、二年生の秋に、北海道への四泊五日の修学旅行です。札幌の自由行動の時間に、小樽へ行き、美味しい海の幸(寿司)を食べ、運河沿いを歩いた事でした。(他の人達は札幌市内)

それ以外にも、たくさんの事を高校時代に学んだのですが、今、社会人になつても、いい思い出になっています。

自分は、今、営業事務をやっていますけど、その上司や同僚に、

必ず、高校野球の開催される時期になると、「今年の常総は、どうなんだ?」と水商OBの上司に聞かれますが(しかも、野球部だったそう)、甲子園出場が決まると、一緒に応援してくれました。

そして、昨年の春に全国優勝した時には、自分だけでなく、勤務先のみんなで感動しました。

最後になりましたが、本当に、常総学院の卒業生でよかつたと思う、三十歳の秋です。

厳しい世の中ですけど、ここで学んで来たことを、これからの人生に役立てたいと思います。同窓生・教職員及び在校生の皆様のご健勝・ご活躍をお祈り致します。

## 「今は1001年です」

東洋大学工学部応用化学科

平成十年度卒

加藤 雅徳

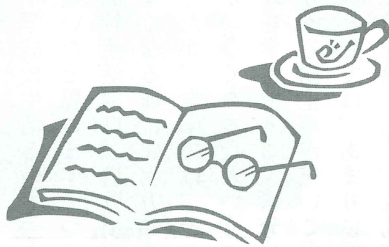
こんにちは。常総を卒業してから年月が過ぎた事をこの会報を書きながら改めて実感しています。

今、ELVIS PRESLEYのベストアルバムを聴いています。このCDは約三十年前にヒットしたのに今でも多くの人々に愛され、親しまれています。

私は常総学院も同じように、一期生の卒業生からこれから卒業していく生徒達に、何年たつても愛され続ける母校であつて欲しいと願っています。

在校当時は二十五クラスありました。アルバムを見ても交流できなかった数の方が多いのですが、三年間続けた弓道部を通し学年やクラスを超えた交流ができました。その中で卒業した今でも仲間五人とは連絡を取り合い、しばしば遊びに出掛けたり話つたりします。

高校時代、心に残っている事と言うとやはり、約二ヶ月に一回行われていた定期試験で、とても苦労はしましたが、この弓道部を通して得た、友人達との出会い「は



一番心に残る事です。

来年は大学も最終学年になり、今度は大学を卒業する事になります。毎日、実験や講義の課題やレポートに追われ高校時代以上に忙しい日々を過ごしています。

来年の春には常総学院で教育実習をする予定です。

教わる立場でいたのに、教える立場で行くわけですから何だかとても不思議に思いますが、実習に行った時はお世話になった先生方に負けない、先生“として取り組みたいです。

時期は異なりますが、同じ空間で時を過ごしている後輩達に会える日を楽しみにしています。

これからも、人と人との“出会い“を大切にして行きたいです。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。



## 大学に入った今思うこと

東京大学教養学部理科一類

平成十三年度卒 荻谷 嘉 顕

今回、この会報を書くにあたり、常総学院でずいぶん長い間生活していたのだからと改めて実感しました。中学校の一期生として入学したのが平成八年四月で、高校の第十七期生として平成十四年三月に卒業するまで六年間、本当に長い間、常総学院に通いました。また、その六年間に先生をはじめ様々な方が指導してくださったことに大変感謝しています。

ところで、常総学院は、他校と比べ、生徒指導が厳しいなどといわれます。確かに私も在学中そう感じることは、しばしばでした。担任の先生に叱られたという苦しい思い出もあります。そういう状況で六年間過ごしたので、基本的に学生に対し干渉してこない大学と高校までの生活とに物凄いギャップを感じます。基本的に大学は学生に対しあまり干渉してこないのだから、学生はある程度好き勝手に行動できるわけです。

しかし、その好き勝手にやった行動に対しては、自己責任で対処

しなければなりません。このことが、中学高校生活とのもつとも大きな違いだと思います。つまり、中学高校生活では、自分で責任を負えなくなる前に先生方に指導されましたが、大学では、その歯止め役がいなくなつたということですね。現在学生である、自分に降りかかってくる歯止めが無いことの悲劇の例としては、あまりに遊び過ぎて単位を落とす……なんてことになりかねません。今のは、あくまで例ですが、こういうことを考えた時、いつか担任が言つた言葉の意味が分かる気がします。その言葉とは、「注意してくれる人がいるだけありがたく思え。社会に出たら誰も注意してくれないんだ」というようなものでした。これは、指導されることが当然だという環境にいる間には、まず分からないことでしょう。その言葉を聞いた当時、私は、その意味をほとんど理解していませんでした。それが今、少しだけでも分かるのは、大学という社会に入り、学業以外に、多少なりとも自分の成長した部分

なのかなと思っています。

常総学院を卒業し、大学に入学した今年、自分のおかれる環境は

大きく変化しました。こういう大きな変化は、そう頻繁にはありません。その数少ない場面に出くわし感じたことなどをこれからも忘れないでいきたいです。

## 大学に入って実感したこと

東京医科歯科大学医学部看護学科

平成十三年度卒 佐々木 綾 香

六年間の常総学院時代を経て、今年の四月から新たな生活が始まりました。場所が違うことはもちろん、先生も同学年の人も誰一人知らない状況からの一からのスタートでした。まだまだ、四月当初は高校生気分が抜けておらず、そのような状態で大学生活が始まったものだから、はじめは中学・高校とのギャップに戸惑いを隠せませんでした。

中学・高校と明らかに違う点、それは大学が自由であるということです。髪が何色であろうが、どんな服を着ようが、それは個人の表現の自由であるし、授業に出ようが出まいが、それも本人の自由意志です。今となつては、自分の中で、それが当たり前となりつつありますが、この当たり前前の「自



由に生活する」ことほど難しいものはない、ということはいま実感しています。なぜなら、この「自由」に甘えることも必要だし、逆に甘えずぎてもいけない、そういう「自由」と「自我」のかけひきが、自由な生活の中には存在するからです。そう考えると、常総学院での六年間は、とても生活しやすい環境が整っていたと思います。

たしかに、校則は他の高校と比べて、厳しかったかもしれないけれど、その校則や先生方の熱心な指導があったおかげで、校風をよりよいものにするという目的の他に、大学に入ってからの自由な環境の中でいかに生活をするか、自由に甘えずぎてはいけない、という精神を身につけたように感じたからです。

私は現在、中学・高校と出来なかったことにいろいろとチャレンジをしています。部活（バドミントン部）・アルバイト・体験学習などが主なもので、勉強と両立させながら毎日充実した生活を送っています。もちろん、常総で過ごした六年間もとても楽しい時間でしたが、いつもどこかで先生方が見守っていてくれたような気がし

ます。大学生になってからは、もう今までのように見守って下さる方はいません。つまり、自分は自分の責任下で物事をこなさなければならぬのです。これが自由の厳しさなのだな、と肌で感じつつ、この自由のもとで大きく羽ばたいていきたいと思っています。

## ボランティア活動をして

二十年十組 藤岡 奈穂美

夏休み、私は近くの保育園で約二週間程、ボランティア活動をしました。さくらんぼ組さん（〇歳）からぶどう組さん（六歳）まで日替りで、全てのクラスの手伝いをさせていただきました。最初は子供と遊んだりするだけだと思っていました。しかし実際は、プールの準備をしたり、部屋の清掃、食事の準備で机やイスをだしたりしましたりと、思っていた以上に動き回り、大変でした。でも、その後、子供達と遊んだりおしゃべりをしていくと、不思議とそんな疲

れは無くなりました。

保育園での生活もだいぶ慣れてきたある日、ある子供が、私にふざけ半分で「バーカ」といつてきました。私は、どうせ子供の言った事なので軽くながせばいいと思いい、「そんな事言っちゃだめだよ。」と言おうと思つた瞬間、後ろにいた保母さんが「〇〇君！ 今、お姉さんに何で言ったの!! 人に馬鹿って言っちゃだめでしょ、早くお姉さんに謝りなさい。」と、すごい気迫で怒りました。普段、街中や公共の場で、あたり前のように使われ聞こえてくる言葉が、今、目の前で真剣に注意されている様子を見て、たつた二文字の言葉でも、言われた相手はとても辛く、

傷つくという言葉の重さをわかってほしい。そして使わないでほしいという保母さんの強い気持ち伝わりました。

子供がお昼寝をしている間、私は保母さんの方々に保育士になるまでの進路、保母としての役割、はじめ等々、沢山のためになる事を教えていただきました。なかでも、子供の育て方での話題では特に感心を持ちました。保母をやっている、その子供に対する親の教育やしつけ、愛情がわかるそうです。初めはそれを聞いた時、よく意味がわかりませんでした。しかし、〇歳児のクラスを手伝わせてもらった時、少しわかった気がします。子供は環境が変わると精

神的に大きく影響します。保母さん達は毎日の子供達の様子を見てるので、だいたいの家庭状況がわかるそうです。

私は、保育園でボランティア活動をしてよかったと思います。子供の純粋な感情とそれを大事にする保母さん達と接して生きる上で、の基本をあらためて確信しました。



平成14年度  
**大学入試を振り返って**  
 進路指導部

〔総括〕

本年度の卒業生はこの数年の中で最も少ない人数であった。その中でも大学進学者は四年制大学・短期大学をあわせると卒業生総数に対して約八十%に達している。

中でも四年制大学の比率は卒業生総数に対し今年度も七十五%を超える高水準を示している。難関大志向が強まった今年は例年より厳しい入試を強いられ、合格者総数では残念ながら伸び悩んだものの卒業生の実数では昨年と比較しても互角以上の結果となった。

また東京大学では、難関といわれる理科I類に五名の合格者を出した。七年連続で東京大学の合格者を出し続けていることに加えて、今年度は昨年度の四名を上まわる五名の合格者を出したことは、本校が進学校として確固たる地位を確立したものと見てよいであろう。

さらに、この数年八十二%前後で推移してきた国公立大学の合格者に占める現役合格者の比率は、

昨年度に引き続き今年度も八十六%となり、本校が貫いてきた現役主義が定着した証となろう。

〔大学入試の特徴〕

今年度の卒業生の大学入試の特徴について主な傾向を挙げてみよう。

- ・文系では「経済・経営・商学」系が最も多くなっている。
- ・理系では「工学」系が最も多くなっているが、「医歯薬」系が増える傾向にある。その結果、今年度の「医歯薬」系の合格者は三十三名と急激に増加した。
- ・短期大学進学者数は昨年と変わらないが女子の四年制大学志向は年々強くなっている。また、短期大学の内訳も、青山学院・大妻女子・共立女子・実践女子・昭和女子などの有名校で十三名と短期大学進学者の過半数を超えている。これらの短大はいずれも四年制大学への編入の道があり、これを見据えた進路選択

といえる。

今年度の卒業生の四年制大学志望率はほぼ一〇〇%に達する。その中でも国公立大学への志向が拡大するとともに、とくに難関大学志向が強くなっている。私立大学受験の今年の傾向として目についたのは、文系では特に人気があり難関化も顕著な法学系学部・外国語学部への受験者が大幅に増加したことである。一方、理系では同様に難関の医・歯・薬系、獣医系、保健・医療・看護系への受験生の増加が著しくなったことである。

〔大学入試の状況〕

■東大合格者、史上最高の五名

平成十四年度入試で最も注目されるのは、東京大学に現役生四名、過年度生一名計五名の合格者を出したことである。加えて全員が難関である理科I類の合格を達成したことは特筆される。現役生からは、五名のチャレンジであったから内四名が目標を達成できたことになる。この理科I類に五名という人数は県内では、土浦一高の同八名に迫る数字であり、水戸一高・江戸川学園取手高校の理科I類の合格者を上回る県内第二位の成果

である。

■中高一貫コース第一期生の健闘

現役生のうち東京大学合格者は、中高一貫コース二名、特進コース二名とそれぞれから互角の結果が出たことの意味は大きい。特に中高一貫コース第一期生の初めての入試であっただけに、内外共に注目されていた中での快挙といつてよいだろう。中高一貫コースではこの他に、東北大学医学部、一橋大学商学部、筑波大学自然・生物学類など国公立大学に十六名に加え、文部科学省所轄外大学校（防衛大学校・防衛医科大学校）にも合格者を出した。

■後期日程までねばる根気強さを養う

高校入学以来学年・教科が連携した的確な指導のもと、東京大学二名の他、北海道大学、東京外国語大学、筑波大学、千葉大学などの国公立大学に多くの合格者を出すことができた。受験日程的には、後期日程からも十名を超える合格者が出ており、ぎりぎりまで可能性を追求する根気強さを発揮してくれた。

■志望校選定にあたって広い視野を持たせる

国公立大学

大学名	合格者数
北海道大学	1
東北大学	1
茨城大学	13
筑波大学	5
群馬大学	2
埼玉大学	1
千葉大学	2
電気通信大学	2
東京大学	5
東京医科歯科大学	1
東京外国語大学	1
一橋大学	1
横浜国立大学	1
九州大学	1
茨城県立医療大学	5
その他	10
文部科学省管轄外大学校	
防衛大学校	3
防衛医科大学校	1

私立大学

大学名	合格者数
岩手医科大学	1
獨協医科大学	3
埼玉医科大学	1
青山学院大学	10
学習院大学	6
慶應義塾大学	4
上智大学	5
中央大学	9
東京薬科大学	5
東京理科大学	20
日本大学	50
法政大学	12
星薬科大学	2
明治大学	15
明治薬科大学	2
立教大学	6
早稲田大学	15
金沢医科大学	1
その他	387

今年の国立大学受験で特徴的なことは、弘前大学・信州大学などごく一部を除いて地方国立大学の受験が少なかったことである。なかなかか地方へは出たがらない傾向は今に始まったことではないが国立大学受験に関しては、平成十五年度入試では積極的なチャレンジを意識しながらも、平成十六年度よりセンター試験科目が五教科七科目に移行する大学もあるので、「安全志向」も視野にいれた志望校選択が必要となるであろう。

また、センター試験で失敗しても一歩も引かずに二次試験に挑む気概も必要である。二次試験の解法力のある受験生ならば、二次重視型の配点の大学を選ぶことにより逆転成功する場合もありうる。

最後に、今年度の入学生の進路希望調査の結果では、全員が四年制大学を希望している。卒業時に全員が目標の大学に合格できるよう、今後の健闘を期待する。

平成15年度 常総学院中学校 入学試験要項

●推薦・専願入学試験

**募集人員** 男子 女子 合計80名 ※学業特待制度有り  
・医学部コース・法学部コース・東大コース 新設

**出願** 日時 平成14年12月2日(月)

**試験** 日時 平成14年12月8日(日)

**場所** 常総学院中学校

**内容** 学科試験 国語100点 算数100点  
面接試験 (受験生のみ)

**合格発表** 日時 平成14年12月12日(木)

**入学手続** 日時 平成14年12月16日(月)

●一般入学試験

**募集人員** 男子 女子 合計80名 ※学業特待制度有り  
・医学部コース・法学部コース・東大コース 新設

**出願** 日時 平成14年12月25日(月)・平成15年1月7日(火)

**試験** 日時 平成15年1月9日(木)

**場所** 常総学院中学校・水戸市民会館・プラザハイアン柏

**内容** 学科試験 国語100点 算数100点  
理科 50点 社会 50点

**合格発表** 日時 平成15年1月14日(火)

**入学手続** 日時 平成15年1月16日(木) 延納制度有り

詳しくは常総学院中学校入試部までお問い合わせください。☎0298-42-0708

平成15年度 常総学院高等学校 入学試験要項

●推薦入学試験

**募集人員** 250名 特進・東大・特技 (受験区分)

**出願** 日時 平成14年12月12日(木) 13日(金)

**試験** 日時 平成14年1月10日(金)

**場所** 常総学院高等学校

**内容** 国語・英語・数学及び面接試験

**合格発表** 日時 平成15年1月14日(火)

**入学手続** 日時 平成15年1月28日(火)

●一般入学試験

**募集人員** 250名 特進 (受験区分)

**出願** 日時 平成15年1月14日(火) 15日(水)

**試験** 日時 平成15年1月21日(火)

**場所** 常総学院高等学校・下妻市立体育館  
牛久運動公園体育館・常総運動公園体育館  
石岡市運動公園体育館・水戸市民体育館  
プラザハイアン柏

**内容** 国語・英語・数学

**合格発表** 日時 平成15年1月27日(月)

**入学手続** 日時 平成15年2月5日(水)  
から公立高校合格発表日の翌日まで。

詳しくは常総学院高等学校入試広報部までお問い合わせください。☎0298-42-8771

■常総学院高等学校同窓会決算書■

平成13年4月1日から平成14年3月31日まで

●収入の部 (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 備考. Rows include 1.会費, 2.募金収入, 3.雑収入, 4.前年度繰越金, and 合計.

●支出の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 備考. Rows include 1.消耗品費, 2.通信運搬費, 3.印刷製本費, 4.会議費, 5.旅費交通費, 6.甲子園出場経費, 7.設備費, 8.雑費, 9.次年度繰越金, and 合計.

上記の決算書について諸帳簿関係証書を監査した結果、適正かつ正確であることを証明いたします。

平成14年4月11日

会計監査 関口義久 植田美幸

平成13年度決算について

- 1 収入の部
入会金・同窓会費、予算どおり収受した。
2 支出の部
同窓会会報発行・郵送・全国高校野球出場補助、合宿所空調工事により支出の増加となった。

第84回選抜高校野球出場に際し会員の皆様よりの寄付のご協力を賜り有難うございました。

■平成14年度 常総学院高等学校同窓会予算書(案)■

平成14年4月1日から平成15年3月31日まで

●収入の部 (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 増減, 備考. Rows include 1.会費, 2.募金収入, 3.雑収入, 4.前年度繰越金, and 合計.

●支出の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 増減, 備考. Rows include 1.消耗品費, 2.通信運搬費, 3.印刷製本費, 4.会議費, 5.旅費交通費, 6.甲子園出場経費, 7.設備費, 8.雑費, 9.次年度繰越金, and 合計.

平成14年度予算について

平成14年度予算は、平成14年度の事業計画と平成13年度の収支実績を勘案して編成した。

- 1 収入の部
卒業生の入会金・会費899名、会員年会費350名を収納予定として算出して計上した。
2 支出の部
本年度の事業計画は、①第三回同窓会会報の発行②会員への同窓会会報の郵送が主なものである。これに基づき予算を編成した。

本年度で、本校も創立二十周年を迎え、授業だけでなく部活動などでも良い伝統を残しつつ、変化の激しい時代を生きるため、夢に向かってチャレンジする在校生、それをサポートする教職員、厳しくも温かい態度で母校の発展を見守る数多くの卒業生の姿が思い浮かびます。そんな本校関係者の皆様に支えられ、量的・質的に工夫された会報第三号の発行となりました。今後とも、年一回の会報発行や総会の実施など同窓会の活動を継続・発展させる所存ですので、皆様からの建設的なご意見を期待致します。

同窓会会長 飯田晃久
編集委員一同

編集後記

同窓会事務局より

常総学院高等学校同窓会総会開催のお知らせ

日時 平成15年4月20日(日)
場所 常総学院高等学校 午前10時から
会員皆様の多数の出席をお待ちしております。

悪質な電話(勧誘)にご注意

同窓会あるいは同窓会事務局と名乗って、電話などで強引に勧誘する事件が発生しています。不審な勧誘を受けた場合には、即答せず同窓会事務局までお問い合わせください。

情報をお寄せください。

会員皆様より情報を募集いたします。特に、同期会、クラス会開催等、卒業生の活躍に関する情報をお待ちしています。 ☎0298-42-8771

常総学院高等学校同窓会会務分担表
Table with 4 columns: 担当, 本部役員, 学校, 主な業務. Rows include 総務, 経理, 会報, 名簿, 事務局, and 監査.